



# 校長室だより 一步一步



朝晩がめっきり寒くなってきました。山の紅葉もきれいになっています。10月には、校外学習、読書週間、持久走旬間、起震車体験などいろいろな行事がありました。また、地域においても区民運動会や区民文化祭などの催し物がありました。子ども達はどの活動にも一所懸命に取り組み、参加していました。まさに文化の秋、運動の秋、学習の秋です。



今は、7日にある学習発表会に向けてみんながんばって取り組んでいます。7日には子ども達のがんばる様子を見に来て下さい。また、懇談会では学校での子ども達の様子や日頃担任や保護者のみなさんが思っていることを、どんどん出して子ども達をよりよくするための話し合いができると思います。よろしくお願いします。

## 自分の身は自分で守る！！

東日本大震災で「釜石の奇跡」ということがありましたが、先日その釜石ですべて防災のお話をしてこられた大学の先生のお話を聞く機会がありました。11月の白峰っ子集会ではちょうど起震車体験と避難訓練を行ったあとでしたので、「自分の身は自分で守る」をキーワードにして、そのお話をしました。



防災に関して、「今の日本はあまりにも他人まかせ、公まかせである、自助、共助、公助というように、自分で自分の身を守る意識をもっともたなくてはならないのではないか。教訓を活かすとはどういうことか。教訓はその時にあったことをもとに考えてしまう。その時以上のことが起こらないとは限らない。」が考えの基本です。実際、釜石などでは、以前の大津波の教訓を活かし、高さ15mの防波堤を作ったり、海の中に津波を抑える大きな堤防をつくったりしていました。またハザードマップを配り地区で避難訓練もしていました。でもなぜ被害にあった方々があんなに多くなったのでしょうか。

例として、二つの地区のお話をされていました。二つとも以前の津波の対応で堤防や防波堤ができていました。先生は、「以前の教訓やハザードマップを参考にするのはよいが、それで絶対大丈夫とは限らないから、避難訓練や避難についてしっかり行って、大変なことにならないように」と指導をして回りました。学校にも指導に行かれていました。子ども達はハザードマップをみて、「自分のところはセーフ、君のところはアウト」などと話していたそうです。「それは絶対でないよ、越えることあるかもしれないよ」というと、どこの子ども達も、はじめは「だってじいちゃんが大丈夫といっているから」と、なかなかきかないところがありました。しかし、「もし、想定を超えることがあったらどうする？」「とにかく、できるだけ高いところへ、遠くへ逃げる。ここは大丈夫と思わないで、できる限りのことをする」という話をしたそうです。 →裏面へ

これは、公民館等で地域の大人たちにも行った指導だそうです。一つの地区は、その通りだということで熱心に聞きました。もう一つの地区は残念ながら、防波堤もあるし、ハザードマップでも大丈夫だからと、あまり熱心ではなかったそうです。

そして、あの大地震の日です。津波の被害は、やはり想定を大きく超えるもので、教訓から作られた防波堤を越えてきました。また、ハザードマップをはるかに超える地域まで津波がきたのです。残念ながら、あのあまり熱心でなかったところはやはり避難が大幅に遅れ、たくさんの方が亡くなりました。

熱心に聞いた地区にあの「釜石の奇跡」が起こったのです。

大きな地震のあと、まず中学生が「大きな地震でしかも長く続いたから、必ず大きな津波がくるぞ」という指導をもとに、自主的に避難を始めました。隣の小学校にいた子ども達にも大声でよびかけ一緒に避難を始めました。もちろん学校の先生も誘導し避難をしました。はじめは学校の三階に避難するよう学校の先生は言いました。そこはハザードマップ上は大丈夫なところでした。しかし、中学生は「先生、もしそれを超えるような津波だったら逃げるところがないよ、もっと上に逃げよう」と言いました。そうだとすることで、とにかく山のほうに逃げました。ハザードマップを超えるここはまず大丈夫だろうというところまでできました。しかし、津波が近づくのをみて「できるだけのことをする」という指導を思いだし、もっと上に逃げました。集まった地域の人と一緒に逃げました。これ以上いけないというところまで逃げました。なんと津波は、そこにいる人たちの足が濡れるほどまでできました。しかし、そこまで津波は引いていきました。



以前の津波では、家にいる人を連れに行ったり、探しにいったりして戻る人が多く犠牲者が増えたことから、とにかく「自分の身は自分で守る」ことを最優先し、家族が逃げていることを信じてとにかく逃げるといった指導もあり、その地区では自主的に避難する人が多かったのです。

その地区には15mの堤防がありました。しかし津波の高さは16m以上で防波堤をやすやすと超えてきました。津波は遅くても50m5秒の速さで、一般的には時速40～60km、あの震災では最大時速115kmの津波もあったそうです。津波が見えてからではとても逃げ切れるものではないのです。



あの学校の三階はどうだったか。三階をこえる津波でした。津波が引いたあとには、三階に津波に運ばれた車が突っ込んでいました。大丈夫と思った最初の避難先も、津波がきて悲惨な状態でした。

いろいろな情報は参考にしつつも、それで安心することなく「より遠く、より高く、出来る限りのことをする」を実践した結果がああ「釜石の奇跡」だったのです。

人は、何かあったとき不安に思いながらも「大丈夫でないか」と思う気持ちが大きくなかなか避難しないそうです。白峰は津波と関係なくても、どんな災害があるかわかりません、また、白峰でなくても、どこかに出かけて行ったところで災害に合うかもしれません。だから、「自分の身は自分で守る」ことを常に心がけ、いろいろな知識を持つと同時に「より安全に出来る限り」を忘れないでいてほしいと思います。

大切な命を守るためにも！

もちろん。学校生活の中での様々な活動も同じです。自分の命友達の命をまもりましょう！